

2017年主要文献目録 (2017年刊行の文献を掲載対象としている)

*国際法、国際私法の雑誌名は原則として法律編集者懇話会のものを使用した。略語表は『法律関係8学会共通会員名簿』又は『法律時報』89巻13号(2017年12月)を参照。

国際政治・外交史

著書

[一般]

秋元 千秋	戦略の地政学—ランドパワーVSシーパワー	ウェッジ
五百旗頭 真 (監修), 片山 裕 (編)	防災をめぐる国際協力のあり方—グローバル・スタンダードと現場との間で	ミネルヴァ書房
石塚 勝美	ケースで学ぶ国連平和維持活動—PKOの困難と挑戦の歴史	創成社
石戸 光 (編), 畑佐 伸英、渥美 利弘、韓 葵花	政治経済的地域統合—アジア太平洋地域の関係性を巡って	三恵社
今井 宏平	国際政治理論の射程と限界—分析ツールの理解に向けて	中央大学出版部
今村 伸哉 (編)	ジョミニの戦略理論—『戦争術概論』新訳と解説	芙蓉書房出版
上原 賢司	グローバルな正義—国境を越えた分配的正義	風行社
ジェニファー・ウェルシュ (著), 秋山 勝 (訳)	歴史の逆襲—21世紀の覇権、経済格差、大量難民、地政学の構図	朝日新聞出版
臼井 実穂子、奥迫 元、山本 武彦 (編)	経済制裁の研究—経済制裁の政治経済学的位置づけ	志學社
榎本 珠良	国際政治史における軍縮と軍備管理—19世紀から現代まで	日本経済評論社
小幡 清剛	丸山眞男と清水幾太郎—自然・作為・逆説の政治哲学	萌書房
加瀬 佳代子	国際政治の中の輝石鉦脈2—原爆被爆戦災誌が教示する世界平和	文芸社
加納 雄大	原子力外交—IAEAの街ウィーンからの視点	信山社
蟹江 憲史 (編)	持続可能な開発目標とは何か—2030年へ向けた変革のアジェンダ	ミネルヴァ書房
パラグ・カンナ (著), 尼丁 千津子、木村 高子 (訳)	「接続性」の地政学—グローバリズムの先にある世界 上・下	原書房
菅 英輝 (編)	冷戦変容と歴史認識 (シリーズ転換期の国際政治2)	晃洋書房
菊池 理夫、有賀 誠、田上 孝一 (編)	政府の政治理論—思想と実践	晃洋書房
北野収	国際協力の誕生—開発の脱政治化を超えて (改訂版)	創成社

葛谷 彩、小川 浩之、西村 邦行 (編)	歴史のなかの国際秩序観—「アメリカの社会科学」を超えて (シリーズ転換期の国際政治5)	晃洋書房
クリストファー・クラーク (著), 小原 淳 (訳)	夢遊病者たち—第一次世界大戦はいかにして始まったか 1・2	みすず書房
黒澤 満 (編)	国際共生と広義の安全保障	東信堂
小泉 康一	グローバル・イシュー—都市難民	ナカニシヤ出版
高坂 正堯	国際政治—恐怖と希望 (改版)	中央公論新社
高坂 正堯	外交感覚—時代の終わりと長い始まり	千倉書房
駒井 洋 (監修), 人見 泰弘 (編)	難民問題と人権理念の危機—国民国家体制の矛盾 (移民・ディアスポラ研究 6)	明石書店
佐藤 史郎、上野 友也、松村 博 行 (著)	はじめての政治学 (第2版)	法律文化社
重田 康博	激動するグローバル市民社会—「慈善」から「公正」への発展と展開	明石書店
渋谷 淳一、本田 量久 (編)	21世紀国際社会を考える—多層的な社会を読み解く38章	旬報社
清水 聡	国際政治学—主権国家体制とヨーロッパ政治外交	法律文化社
ジェームズ・ジョル (著), 池 田 清 (訳)	第一次世界大戦の起原 改訂新版 新装版	みすず書房
新川 敏光 (編)	国民再統合の政治—福祉国家とリベラル・ナショナリズムの間	ナカニシヤ出版
新川 敏光、大西 裕、大矢根 聡、田村 哲樹	政治学	有斐閣
杉村 美紀 (編)	移動する人々と国民国家—ポスト・グローバル化時代における市民社会の変容	明石書店
杉田 弘毅	「ポスト・グローバル時代」の地政学	新潮社
鈴木 基史	グローバル・ガバナンス論講義	東京大学出版会
スヴェン・スタインモ (著), 山崎 由希子 (訳)	政治経済の生態学—スウェーデン・日本・米国の進化と適応	岩波書店
ニコラス・J・スパイクマン (著), 渡邊 公太 (訳)	スパイクマン地政学—世界政治と米国の戦略	芙蓉書房出版
スコット・セーガン、ケネス・ ウォルツ (著), 川上 高司 (監 訳), 斎藤 剛 (訳)	核兵器の拡散—終わりなき論争	勁草書房
仙石 学 (編)	脱新自由主義の時代?—新しい政治経済秩序の模索	京都大学学術出版会
曾村 保信	地政学入門—外交戦略の政治学 (改版)	中央公論新社
瀧川 裕英	国家の哲学—政治的責務から地球共和国へ	東京大学出版会
滝澤 三郎、山田 満 (編)	難民を知るための基礎知識—政治と人権の葛藤を越えて	明石書店

滝田 賢治、大芝 亮、都留 康子 (編)	国際関係学—地球社会を理解するために (第2版)	有信堂高文社
滝田 賢治 (編)	21世紀国際政治の展望—現状分析と予測 (中央大学政策文化総合研究所叢書22)	中央大学出版部
高橋 若菜	越境大気汚染の比較政治学—欧州、北米、東アジア	千倉書房
田中 明彦	新しい中世—相互依存の世界システム (講談社学術文庫)	講談社
玉田 芳史 (編)	政治の司法化と民主化 (シリーズ転換期の国際政治4)	晃洋書房
田村 哲樹、松元 雅和、乙部 延 剛、山崎 望	ここから始める政治理論	有斐閣
鄭 榮蘭	日韓文化交流の現代史—グローバル化時代の文化政策: 韓流と日流	早稲田大学出版部
鄭 方婷	重複レジームと気候変動交渉—米中対立から協調、そして「パリ協定」へ	現代図書
都築 勉	丸山眞男、その人—歴史認識と政治思想	世織書房
中川 右介	冷戦とクラシック—音楽家たちの知られざる闘い	NHK出版
中谷 義和、川村 仁子、高橋 進、松下 洸 (編)	ポピュリズムのグローバル化を問う—揺らぐ民主主義のゆくえ	法律文化社
中村 都 (編)	国際関係論へのファーストステップ (新版)	法律文化社
永山 博之、河原地 英武、井口 正彦、早川 有香	国際政治学への扉	一藝社
納家 政嗣、永野 隆行 (編)	帝国の遺産と現代国際関係	勁草書房
西川 佳秀	マスター国際政治学	晃洋書房
西谷 真規子 (編)	国際規範はどう実現されるか—複合化するグローバル・ガバナンスの動態	ミネルヴァ書房
初瀬 龍平、戸田 真紀子、松田 哲、市川 ひろみ (編)	国際関係論の生成と展開—日本の先達との対話	ナカニシヤ出版
東 大作 (編)	人間の安全保障と平和構築	日本評論社
バリー・ブザン (著), 大中 真、佐藤 誠、池田 丈佑、佐藤 史郎 ほか (訳)	英国学派入門—国際社会論へのアプローチ	日本経済評論社
キース・ブレッケンリッジ (著), 堀内 隆行 (訳)	生体認証国家—グローバルな監視政治と南アフリカの近現代	岩波書店
星野 智	ハイドロポリティクス	中央大学出版部
本田 周爾	国際コミュニケーションの政治学	春風社
増島 建	開発援助アジェンダの政治化—先進国・途上国関係の転換か? (シリーズ転換期の国際政治3)	晃洋書房
アルフレッド・セイヤー・マハ ン (著), アラン・ウェスト コット (編), 矢吹 啓 (訳)	マハン海戦論	原書房

丸山 眞男	丸山眞男講義録 別冊1、2	東京大学出版会
ウィリアム・マリガン (著) , 赤木 完爾、今野 茂充 (訳)	第一次世界大戦への道—破局は避けられなかったのか	慶應義塾大学出版会
ジョン・J・ミアシャイマー (著), 奥山 真司 (訳)	なぜリーダーはウソをつくの—国際政治で使われる5つの「戦略的なウソ」	中央公論新社
ジョン・J・ミアシャイマー (著), 奥山 真司 (訳)	大国政治の悲劇 完全版	五月書房新社
森 彰夫	インクルーシブ国際社会論	彩流社
山中 仁美	戦間期国際政治とE・H・カー	岩波書店
山中 仁美 (著), 佐々木 雄太 (監訳), 吉留 公太、山本 健、 三牧 聖子、板橋 拓己、浜 由樹 子 (訳)	戦争と戦争のはざま—E・H・カーと世界大戦	ナカニシヤ出版
山本 武彦、庄司 真理子 (編)	軍縮・軍備管理 (現代国際関係学叢書第2巻)	志學社
山本 武彦、玉井 雅隆 (編)	国際組織・国際制度 (現代国際関係学叢書第1巻)	志學社
米原 謙 (編)	政治概念の歴史的展開 第10巻	晃洋書房
イブ・ラコスタ (著), 猪口 孝 (監修), 大塚 宏子 (訳)	ラルース地図で見る国際関係—現代の地政学 ヴィジュアル版新版	原書房
スペンサー・R・ワート (著), 山本 昭宏 (訳)	核の恐怖全史—核イメージは現実政治にいかなる影響を与えたか	人文書院

[日本関係]

赤江 達也	矢内原忠雄—戦争と知識人の使命	岩波書店
浅海 保	変節と愛国—外交官・牛場信彦の生涯	文藝春秋
飯森 明子	戦争を乗り越えた日米交流—日米協会の役割と日米関係1917～1960	彩流社
五百旗頭 薫、小宮 一夫、細谷 雄一、宮城 大蔵、東京財団政治 外交検証研究会 (編)	戦後日本の歴史認識	東京大学出版会
池内 敏	絶海の碩学—近世日朝外交史研究	名古屋大学出版会
井上 寿一	戦争調査会—幻の政府文書を読み解く	講談社
岩井 奉信、岩崎 正洋 (編)	日本政治とカウンター・デモクラシー	勁草書房
梅林 宏道	在日米軍—変貌する日米安保体制	岩波書店
勝田 政治	明治国家と万国対峙—近代日本の形成	KADOKAWA

加藤 聖文	国民国家と戦争—挫折の日本近代史	KADOKAWA
北岡 伸一	日本外交史—外交と権力（増補版）	有斐閣
清沢 洌（著），桜町研究会（編）	日本外交史 1（復刻版）	桜町書院
木村 隆和	日中国交正常化と日米関係—対米「自主」外交の裏面史	三恵社
佐々木 雄一	帝国日本の外交1894-1922—なぜ版図は拡大したのか	東京大学出版会
白木沢 旭児（編）	北東アジアにおける帝国と地域社会	北海道大学出版会
鈴木 隆	東アジア国際関係の新展開—安全保障と市民社会の側面から見た対抗と調和の力学	志學社
鈴木 美勝	日本の戦略外交	筑摩書房
添谷 芳秀	日本の外交—「戦後」を読みとく	筑摩書房
高谷 幸	追放と抵抗のポリティクス—戦後日本の境界と非正規移民	ナカニシヤ出版
田嶋 信雄	日本陸軍の対ソ謀略—日独防共協定とユーラシア政策	吉川弘文館
田中 明彦、日本経済研究センター（編）	提言日米同盟を組み直す—東アジアリスクと安全保障改革	日本経済新聞出版社
津山 謙	「軍」としての自衛隊—PSI参加と日本の安全保障政策	慶應義塾大学出版会
東郷 和彦、森 哲郎、中谷 真憲（編）	日本発の「世界」思想—哲学/公共/外交	藤原書店
富樫 あゆみ	日韓安全保障協力の検証—冷戦以後の「脅威」をめぐる力学	亜記書房
戸山 穰	1911年版ブリタニカが語った日本外交史	展転社
永野 慎一郎	明治期外交官・若松兎三郎の生涯—日韓をつなぐ「白い華」綿と塩	明石書店
萩原 稔、伊藤 信哉（編）	近代日本の対外認識 2	彩流社
波多野 澄雄、久保 亨、中村 元哉（編）	日中終戦と戦後アジアへの展望	慶應義塾大学出版会
黄 自進、劉 建輝、戸部 良一（編）	〈日中戦争〉とは何だったのか—複眼的視点	ミネルヴァ書房
朴 沙羅	外国人をつくりだす—戦後日本における「密航」と入国管理制度の運用	ナカニシヤ出版
服部 龍二	幣原喜重郎—外交と民主主義（増補版）	吉田書店
坂野 潤治	帝国と立憲—日中戦争はなぜ防げなかったのか	筑摩書房
広中 一成	冀東政権と日中関係	汲古書院
堀本 武功（編）	現代日印関係入門	東京大学出版会
真崎 翔	核密約から沖縄問題へ—小笠原返還の政治史	名古屋大学出版会
アルジャーノン・B・ミット フォード（著），大西 俊男（訳）	ミットフォードと釈尊—イギリス人外交官の見た理想郷日本	春風社
三船 恵美	米中露パワーシフトと日本	勁草書房

宮川 徹志	僕は沖縄を取り戻したい―異色の外交官・千葉一夫	岩波書店
宮城 大蔵	海洋国家日本の戦後史―アジア変貌の軌跡を読み解く (増補版)	筑摩書房
宮下 明聡	ハンドブック戦後日本外交史―対日講和から密約問題まで	ミネルヴァ書房
明治維新史学会 (編)	明治維新と外交 (講座明治維新6)	有志舎
マーガレット・メール (著), 千葉 功、松沢 裕作 (訳)	歴史と国家―19世紀日本のナショナル・アイデンティティと学問	東京大学出版会
毛里 和子	日中漂流―グローバル・パワーはどこへ向かうか	岩波書店
山崎 鯛介、メアリー・レッドファーン、今泉 宜子	天皇のダイニングホール―知られざる明治天皇の宮廷外交	思文閣出版
柳田 辰雄 (編)	揺らぐ国際システムの中の日本	東信堂
柳原 正治、篠原 初枝 (編)	安達峯一郎―日本の外交官から世界の裁判官へ	東京大学出版会
藪中 三十二、佐藤 優	核と戦争のリスク―北朝鮮・アメリカ・日本・中国動乱の世界情勢を読む	朝日新聞出版
若月 秀和	冷戦の終焉と日本外交―鈴木・中曽根・竹下政権の外政1980～1989年	千倉書房

【アジア・中東・アフリカ・ラテンアメリカ・オセアニア関係】

青山 弘之	シリア情勢―終わらない人道危機	岩波書店
秋田 茂	帝国から開発援助へ―戦後アジア国際秩序と工業化	名古屋大学出版会
石黒 大岳 (編)	アラブ君主制国家の存立基盤	アジア経済研究所
岡本 隆司	中国の誕生―東アジアの近代外交と国家形成	名古屋大学出版会
小野寺 史郎	中国ナショナリズム―民族と愛国の近現代史	中央公論新社
片山 和之	対中外交の蹉跌―上海と日本人外交官	日本僑報社
加茂 具樹 (編)	中国対外行動の源泉 (慶應義塾大学東アジア研究所・現代中国研究シリーズ)	慶應義塾大学出版会
川口 順子、秋山 昌廣 (編著)	アジア太平洋の未来図―ネットワーク覇権	中央経済社
私市 正年、浜中 新吾、横田 貴之 (編)	中東・イスラーム研究概説―政治学・経済学・社会学・地域研究のテーマと理論	明石書店
木田 剛、竹内 幸雄 (編)	安定を模索するアフリカ (グローバル・サウスはいま4)	ミネルヴァ書房
国分良成	中国政治からみた日中関係	岩波書店
小嶋 華津子、島田 美和 (編)	中国の公共性と国家権力―その歴史と現在	慶應義塾大学出版会
後藤 政子、山崎 圭一 (編)	ラテンアメリカはどこへ行く (グローバル・サウスはいま 5)	ミネルヴァ書房
陶山 宣明	オーストラリアの政党政治	溪水社
田中 仁 (編)	21世紀の東アジアと歴史問題―思索と対話のための政治史論	法律文化社
谷野 作太郎	中国・アジア外交秘話―あるチャイナハンドの回想	東洋経済新報社
日本孫文研究会 (編)	孫文とアジア太平洋―ネイションを越えて	汲古書院

日本臨床政治学会（監修）、丹羽文生（編）	激動するアジアの政治経済（講座臨床政治学第7巻）	志學社
林 望	習近平の中国—百年の夢と現実	岩波書店
林 裕	紛争下における地方の自己統治と平和構築—アフガニスタンの農村社会メカニズム	ミネルヴァ書房
羽場 久美子（編）	アジアの地域統合を考える—戦争をさけるために	明石書店
廣部 泉	人種戦争という寓話—黄禍論とアジア主義	名古屋大学出版会
藤田 直央	エスカレーション—北朝鮮vs. 安保理四半世紀の攻防	岩波書店
森 万祐子	朝鮮外交の近代—宗属関係から大韓帝国へ	名古屋大学出版会
益尾 知佐子、青山 瑠妙、三船 恵美、趙 宏偉	中国外交史	東京大学出版会
松村 智雄	インドネシア国家と西カリマンタン華人—「辺境」からのナショナリズム形成	慶應義塾大学出版会
山内 昌之（編）	中東とISの地政学—イスラーム、アメリカ、ロシアから読む21世紀	朝日新聞出版
吉川 純恵	中国の大国外交への道のり—国際機関への対応をめぐって	勁草書房
ユージン・ローガン（著）、白須 英子（訳）	オスマン帝国の崩壊—中東における第一次世界大戦	白水社
渡辺昭一（編）	冷戦変容期の国際開発援助とアジア—1960年代を問う	ミネルヴァ書房

【アメリカ・ヨーロッパ関係】

浅岡 善治、中島 毅（編）	人間と文化の革新（ロシア革命とソ連の世紀4）	岩波書店
朝治 啓三、渡辺 節夫、加藤 玄（編）	「帝国」で読み解く中世ヨーロッパ—英独仏関係史から考える	ミネルヴァ書房
麻田 雅文（編）	ソ連と東アジアの国際政治—1919-1941（東北アジア研究専書）	みすず書房
井内 敏夫（編）	ロシア・東欧史における国家と国民の相貌	晃洋書房
池田 有日子	ユダヤ人問題からパレスチナ問題へ—アメリカ・シオニスト運動にみるネーションの相克と暴力連鎖の構造	法政大学出版局
池田 嘉郎（編）	世界戦争から革命へ（ロシア革命とソ連の世紀1）	岩波書店
宇山 智彦（編）	越境する革命と民族（ロシア革命とソ連の世紀5）	岩波書店
D・エジャトン（著）、坂出 健（監訳）、松浦 俊輔、佐藤 秀昭、高田 馨里、新井田 智幸、森原 康仁（訳）	戦争国家イギリス—反衰退・非福祉の現代史	名古屋大学出版会
大泉 常長	激動の欧州連合〈EU〉の移民政策—多文化・多民族共生の限界とイスラム過激派組織によるテロリズムの脅威	晃洋書房

小川 健一	冷戦変容期イギリスの核政策—大西洋核戦力構想におけるウィルソン政権の相克	吉田書店
小田 健	ロシア近現代と国際関係—歴史を学び、政治を読み解く	ミネルヴァ書房
尾上 修悟	ギリシャ危機と揺らぐ欧州民主主義—緊縮政策がもたらすEUの亀裂	明石書店
小山 洋司	EUの危機と再生—中東欧小国の視点	文眞堂
川上 高司、石澤 靖治	トランプ後の世界秩序—激変する軍事・外交・経済	東洋経済新報社
菅 英輝、初瀬 龍平 (編)	アメリカの核ガバナンス(シリーズ転換期の国際政治7)	晃洋書房
久保 文明、砂田 一郎、松岡 泰、森脇 俊雅	アメリカ政治 (第3版)	有斐閣
小泉 直美	ポスト冷戦期におけるロシアの安全保障外交	志學社
小町 恭士	対ロ平和的積極外交	中央公論新社
齊藤 孝祐	軍備の政治学—制約のダイナミクスと米国の政策選択	白桃書房
齋藤 嘉臣	ジャズ・アンバサダーズ—「アメリカ」の音楽外交史	講談社
佐々木 卓也 (編)	戦後アメリカ外交史 (第3版)	有斐閣
ジャック・サピール (著), 坂口 明義 (訳)	EU崩壊—秩序ある脱=世界化への道	藤原書店
進藤 榮一	アメリカ帝国の終焉—勃興するアジアと多極化世界	講談社
関 静雄	ミュンヘン会談への道—ヒトラー対チェンバレン外交対決30日の記録	ミネルヴァ書房
竹本 真希子	ドイツの平和主義と平和運動—ヴァイマル共和国期から1980年代まで	法律文化社
田嶋 信雄、工藤 章 (編)	ドイツと東アジア—1890 - 1945	東京大学出版会
ジョン・W・ダワー (著), 田中 利幸 (訳)	アメリカ暴力の世紀—第二次大戦以降の戦争とテロ	岩波書店
月山 太郎 (編)	解体後のユーゴスラヴィア (シリーズ転換期の国際政治6)	晃洋書房
平島 健司	ドイツの政治	東京大学出版会
藤木 剛康	ポスト冷戦期アメリカの通商政策—自由貿易論と公正貿易論をめぐる対立	ミネルヴァ書房
藤岡 真樹	アメリカの大学におけるソ連研究の編制過程	法律文化社
ハーバート・フーバー (著), ジョージ・H・ナッシュ (編), 渡辺 惣樹 (訳)	裏切られた自由—フーバー大統領が語る第二次世界大戦の隠された歴史とその後遺症 上・下	草思社
松井 康浩、中島 毅 (編)	スターリニズムという文明 (ロシア革命とソ連の世紀2)	岩波書店
松戸 清裕 (編)	冷戦と平和共存(ロシア革命とソ連の世紀 3)	岩波書店
G.マヨーネ (著), 庄司 克宏 (監訳)	欧州統合は行きすぎたのか 上・下	岩波書店
三須 拓也	コンゴ動乱と国際連合の危機—米国と国連の協働介入史、1960～1963年	ミネルヴァ書房
南野 泰義	北アイルランド政治論—政治的暴力とナショナリズム	有信堂高文社

三宅 正樹	ヒトラーと第二次世界大戦 (新訂版)	清水書院
六鹿 茂夫 (編)	黒海地域の国際関係	名古屋大学出版会
宮田 智之	アメリカ政治とシンクタンク—政治運動としての政策研究機関	東京大学出版会
望戸 愛果	「戦争体験」とジェンダー —アメリカ在郷軍人会の第一次世界大戦戦場巡礼を読み解く	明石書店
山田 康博	原爆投下をめぐるアメリカ政治—開発から使用までの内政・外交分析	法律文化社
山本 章子	米国と日米安保条約改定—沖縄・基地・同盟	吉田書店
力久 昌幸	スコットランドの選択—多層ガヴァナンスと政党政治	木鐸社
リチャード・リングマン (著), 滝川 義人 (訳)	銃後のアメリカ人 1941～1945—パールハーバーから原爆投下まで	悠書館
渡辺 和行	ドゴールと自由フランス—主権回復のレジスタンス	昭和堂

【資料】

明石 康	カンボジアPK0日記—1991年12月～1993年9月	岩波書店
小笠原 高雪、栗栖 薫子、広瀬 佳一、宮坂 直史、森川 幸一 (編)	国際関係・安全保障用語辞典 (第2版)	ミネルヴァ書房
黒沢 文貴、季武 嘉也 (編)	日記で読む近現代日本政治史	ミネルヴァ書房
国際連合経済社会情報・政策分 析局人口部 原著(編), 原書房編 集部 (訳)	国際連合世界人口予測—1960→2060 第1分冊・第2分冊 (2017年改訂版)	原書房
塩田 純	尖閣諸島と日中外交—証言・日中米「秘密交渉」の真相	講談社
ヘンリー・L・スティムソン、 マックジョージ・バンディ (著), 中沢 志保、藤田 怜史 (訳)	ヘンリー・スティムソン回顧録 上・下	国書刊行会
武田 知己、鈴木 宏尚、池田 慎 太郎、佐道 明広	資料で学ぶ日本政治外交史	法律文化社
波多野 澄雄、河野 康子、明田 川 融 (編)	沖縄返還関係資料 第1回配本 1～7	現代史料出版
防衛省防衛研究所戦史研究セン ター (編)	オーラル・ヒストリー—冷戦期の防衛力整備と同盟政策 7	防衛省防衛研究所

横山 正幸（著），白石 昌也、 難波 ちづる、岡田 友和、白井 拓朗（訳）	外交官・横山正幸のメモワールーバオ・ダイ朝廷政府の最高顧問が見た1945年のベトナム	早稲田大学アジア太平洋 研究センター
アストリッド・リンドグレーン （著），石井 登志子（訳）	リンドグレーンの戦争日記—1939-1945	岩波書店

論文（国際政治・外交史）

【一般】

赤木 完爾	序論—安全保障理論の新たな地平	国際安全保障44（4）
泉川 泰博	エージェント—構造問題に関する理論研究の新潮流	国際安全保障44（4）
今井 真士	権威主義体制下の執政制度の選択と変更—「正統性の二元性」と「指導者の二元性」への視点	日本比較政治学会年報19
上杉 勇司	国家建設と平和構築をつなぐ—「折衷的平和構築論」の精緻化に向けて	国際安全保障45（2）
遠藤 知子	脱生産主義社会における労働なき福祉の可能性	年報政治学2017-II
大島 美穂	序章 地域研究と国際政治の間	国際政治189
岡崎 哲郎	立憲的経済学の可能性	レヴァイアサン60
小笠原 高雪	序論—主権国家体制と国際安全保障	国際安全保障45（2）
長 有紀枝	21世紀の「難民問題」	国際問題662
尾崎 久仁子	国際刑事裁判所と国際社会における法の支配	国際問題666
小野 圭司	人口動態と安全保障—22世紀に向けた防衛力整備と経済覇権	防衛研究所紀要19（2）
掛江 朋子	天然資源開発における透明性の要請—マルチセクター多国間主義の可能性と限界	国連研究18
粕谷 祐子、東島 雅昌	選挙権威主義からの民主化—議院内閣制の脅威？	日本比較政治学会年報19
片柳 真理	人権に基づく転換的平和	国際政治186
川崎 一泰	政府予測の情報バイアスと財政赤字—政治的中立な独立財政機関の必要性	レヴァイアサン60
久保田 徳仁	PKOの要員提供がクーデタの発生・成否に及ぼす影響—1991～2007	比較政治研究3
栗崎 周平	集団的自衛権と安全保障のジレンマ	年報政治学2017-II
河野 桂子	サイバー空間を通じた監視活動の法的評価—間諜行為、主権侵害と人権法（プライバシーの侵害）の観点から	防衛研究所紀要19（2）
今野 茂充	国際安全保障の理論と第一次世界大戦の勃発—予防戦争理論・戦争のルビコン理論と歴史研究の進展	国際安全保障44（4）
佐桑 健太郎	地域の同盟構造と国際紛争	国際政治189
篠田 英朗	国連と法の支配の現在	国際問題666
神保 謙	無人化システム・ロボティクスと安全保障	国際問題658
鈴木 一人	安全保障の空間的変容	国際問題658
鈴木 一敏	経済グローバル化が利益団体に与えた影響	年報政治学2017-I
高柳 彰夫	序論 SDGs時代の開発援助・国際協力の実践と課題	国際政治186
多湖 淳	拒否権行使と驚き—国連安保理決議をめぐる情報効果の研究	年報政治学2017-II
土屋 大洋	サイバー戦場の霧を晴らす	国際問題658

等松 春夫	序章 歴史認識と国際政治	国際政治187
中山 裕美	難民レジームの危機の検討—負担分担と安全保障の関連から	国際安全保障45 (3)
新川 匠郎	集合論から見える新しい地平とは？連立研究での方法論的多元性と刷新から考える	年報政治学2017-I
西川 由紀子	紛争を経験した脆弱国をめぐる開発協力—批判的検証と今後の展望	国際政治186
西村 弓	海洋紛争の解決手続と法の支配	国際問題666
墓田 桂	「難民問題」の複合性	国際問題662
島山 京子	非伝統的安全保障概念の再検討と資源安全保障	国際安全保障45 (3)
林 明仁	自己規制イニシアティブとNGOの存在意義	国際政治186
菱沼 剛	国際機構の訓練・教育・研究機能の役割と今後の展望	国連研究18
真嶋 麻子	途上国開発における現地化の機能—体制移行期のアルゼンチンへのUNDPの対応から	国際政治186
政所 大輔	「保護する責任」規範の伝播—説得と交渉のメカニズム	国際政治187
政所 大輔	保護する責任の実施と人間の安全保障—国際支援に着目して	国連研究18
山下 光、神宮司 覚	平和維持活動派遣国に対する国際支援	防衛研究所紀要20 (1)
山田 高敬	多中心的グローバル・ガバナンスにおけるオーケストレーションと政策革新—企業と人権をめぐる実験	年報政治学2017-I
山田 高敬	地球環境問題の安全保障化の限界と可能性	国際安全保障45 (3)
柳井 俊二	国際社会における法の支配—希望、挫折、展望	国際問題666
渡邊 昭夫	なぜいま多国間主義が問題なのか？	国連研究18

【日本関係】

板山 真弓	「日米防衛協力のための指針」策定以前における日米防衛協力の実態	国際政治188
伊藤 隆太	過信のリアリズム試論—日ソ中立条約（1941年）を事例として	国際安全保障44 (4)
宇田川 光弘	日本の援助理念としての自助努力支援の国際政治論的考察—人間の安全保障との関係性を視野に	国際政治186
大村 華子	サーヴェイ実験による操作変数を用いた経済投票の分析	年報政治学2017-II
楠 綾子	基地、再軍備、2国間安全保障関係の態様—1951年日米安全保障条約の法的意味とその理解	年報政治学2017-II
小山 高司	沖縄の施政権返還に伴う沖縄への自衛隊配備をめぐる動き	防衛研究所紀要20 (1)
真田 尚剛	「防衛計画の大綱」における基盤的防衛力構想の採用 一九七四—一九七六年—防衛課の「常備すべき防衛力」構想を巡る攻防	国際政治188
杉野原 真子	対内直接投資の政治学—日米の事例から	年報政治学2017-I
高島 亜紗子	謝罪の形成—第二次大戦後の日本とドイツを比較して	国際政治187
高橋 秀幸	自衛隊草創期の統合：統合幕僚会議設置に航空自衛隊創設が及ぼした影響—旧軍からの継続性を踏まえて	防衛研究所紀要19 (2)
高橋 力也	一九三〇年ハーグ国際法典編纂会議における「妻の国籍」問題と日本—「国際法の進歩」と「帝国の利益」	国際政治188
滝澤 三郎	日本の「難民政策」の課題と展望	国際問題662

竹中 治堅	戦前日本における民主化途上体制の崩壊—競争的権威主義体制論への意味	日本比較政治学会年報19
中山 俊宏	トランプ時代の日米関係	国際問題663
萩原 淳	昭和初期の枢密院運用と政党内閣—憲法解釈をめぐる先例と顧問官統制を中心に	年報政治学2017-II
福島 啓之	日比賠償問題の歴史認識—人道の規範意識と象徴的な損失補填による被害者の救済	国際政治187
福島 啓之	日米同盟の合理的選択論—理論の政策課題への適用の試みとして	国際安全保障44 (4)
保城 広至	日米関係と政府開発援助	国際政治186
本田 倫彬	JICAの平和構築支援の史的展開 (一九九九—二〇一五) —日本流平和構築アプローチの形成	国際政治186
村井 良太	佐藤政権と革新自治体—七〇年安保前後の東京と沖縄	年報政治学2017-II
山口 航	総合安全保障の受容—安全保障概念の拡散と「総合安全保障会議」設置構想	国際政治188

【アジア・中東・アフリカ・ラテンアメリカ・オセアニア関係】

相沢 伸広	ジョコウィ=インドネシア政権の国内政治とASEAN外交	国際問題665
青山 弘之	シリアの親政権民兵	中東研究530
天野 健作	インドの国際河川における紛争防止メカニズムの比較考察	国際政治186
石間 英雄	事前審査による政党の一体性—オーストラリア労働党を事例として	年報政治学2017-I
一政 祐行	核不拡散と経済制裁を巡る諸問題	防衛研究所紀要19 (2)
伊藤 正子	韓国軍によるベトナム人戦時虐殺問題—戦争の記憶と和解	アジア研究63 (3)
今井 宏平	なぜトルコはカタールを重視するのか	中東研究531
林 載桓	中国の「集団領導制」の制度分析—権威主義体制、制度、時間	アジア経済58 (3)
上谷 直克	「競争的権威主義」と「委任型民主主義」の狭間で—ラテンアメリカの事例から考える	日本比較政治学会年報19
岡部 正義	フィリピン・ミンダナオ農村部における教育需要の持続性に関する社会経済分析—ジェンダーと教育水準の世代間関係に着目して	アジア研究63 (1)
柿崎 正樹	エルドアン大統領の歴史認識—ケマリズム史観への挑戦	中東研究530
梶谷 懐	中国経済のマクロ安定性—不動産市場の行方と地方財政	国際問題664
金谷 美紗	最近のエジプト外交における湾岸地域情勢の位置づけ—イエメン紛争とカタール断交問題の比較	中東研究531
兼原 敦子	南シナ海仲裁判断 (本案) にみる国際法の妥当性の論理	国際問題659
上 英明	一八九八年戦争の記憶—米・キューバ国交正常化交渉におけるプエルトリコ独立問題を事例に	国際政治187
河合 正弘	世界経済と人民元の国際化	国際問題664
川口 智恵	紛争影響下における人道救援と開発の連続的実施—南スーダン事例からの考察	国連研究18
河野 真理子	南シナ海仲裁の手續と判断実施の展望	国際問題659
関 志雄	トランプ政権下の米中通商摩擦の行方—人民元問題を中心に	国際問題664

菊池 努	米中関係を超えて一大国間の権力政治と東南アジア	国際問題665
窪田 順平	気候変動対策と中国—パリ協定批准によせて	国際問題661
倉田 徹	雨傘運動とその後の香港政治—一党支配と分裂する多元的市民社会	アジア研究63 (1)
栗田 真広	中国・インド関係における核抑止	防衛研究所紀要20 (1)
栗田 真広	中国海軍のインド洋進出とグワダル港—「基地化」の虚実	中東研究531
黒田 賢治	「法学者の統治」体制における政治勢力としての法学者の行方—第12期イラン大統領選挙をてがかりに	中東研究530
古賀 慶	「安全保障化」のツールとしての地域機構—ASEANとECOWASの比較検証	国際政治189
小谷 哲男	南シナ海仲裁判断後の東シナ海—南シナ海問題との相関関係	国際問題659
小塚 郁也	国際社会の対イラン制裁—スマート・サンクション+ α の経済制裁の実効性について	防衛研究所紀要19 (2)
小林 綾子	アフリカの内戦における人道アクセス問題と反乱軍—南スーダンを事例として	国際政治186
齋藤 純	アラブ首長国連邦の銀行合併と取締役	中東研究530
酒井 啓子	戦後のイラクで何が対立しているのか—関係性の結果としての宗派	国際政治189
酒井 啓子	中東における安全保障観の変質—脱国家主体と国家主体との相互作用から論じる	国際安全保障45 (2)
塩出 浩和	マカオ反離保運動—「親密圏」における政治的抗議	アジア研究63 (1)
清水 一史	ASEAN経済統合の深化とASEAN Centrality	国際問題665
下郡 けい	中東地域における原子力発電の導入—現状と課題	中東研究529
庄司 智孝	ベトナムの安全保障—「三つのNo」の論理と実践	国際政治189
庄司 智孝	南シナ海とASEAN—フィリピンとベトナムの対応	アジア研究63 (4)
杉木 明子	アフリカにおける強制移動民と「混合移動」—ソマリアの事例から	国際問題662
角南 篤	「宇宙強国」中国とデュアルユース技術開発	国際問題661
高尾 賢一郎	サウジアラビアにおける宗教界の変遷と役割	中東研究530
高木 誠一郎	中国対外戦略・政策の新展開	国際問題661
高木 佑輔	ドゥテルテ政権の外交政策—フィリピンにおける親アジア路線の模索と課題	国際問題665
高橋 百合子	大規模自然災害と体制移行—統合制御法 (the synthetic control method) によるメキシコ1985年大地震の事例分析	年報政治学2017-II
高原 明生	仲裁判断後の南シナ海を巡る中国外交	国際問題659
ジェラルド・チャン	後発国から超大国へ—中国高速鉄道の“奇跡”を紐解く	国際問題661
土屋 一樹	エジプトの食糧安全保障	中東研究529
外山 文子	タイにおける半権威主義的体制の再登場—連続性と不連続性	日本比較政治学会年報19
中居 良文	トランプ政権と米中関係—中国はトランプ政権の誕生をどう受け止めたか	国際問題663
中谷 和弘	南シナ海比中仲裁判断と海洋における法の支配	国際問題659
西舘 康平	ナイル川流域における利水・治水開発とその政治性—エチオピアのGERD建設を事例に	中東研究529
深串 徹	中華民国の公定歴史認識と政治外交—一九五〇—一九七五年	国際政治187

ローズマリー・フット	中国と国際人間保護レジーム—変化する規範的秩序における信念、パワー、地位	国際問題661
船津 鶴代	タイ立憲革命期の華人新興企業家と官僚—サイアム商業会議所創設メンバーの政治・経済活動の分析	アジア経済58 (1)
古澤 嘉朗	シエラレオネのチーフダム警察改革にみる国家の形—治安部門改革の変遷に着目して (1996-2015年)	国際安全保障45 (2)
益尾 知佐子	中国海洋行政の発展—南シナ海問題へのインプリケーション	アジア研究63 (4)
松浦 正伸	「疑似環境」と政治—北朝鮮帰国事業における総連と北朝鮮ロビーの役割を中心として	国際政治187
松浦 吉秀	シンガポールの人口問題と安全保障上の含意	防衛研究所紀要19 (2)
松本 はる香	第一次台湾海峡危機をめぐる大陸沿岸諸島の防衛問題の変遷—「蒋介石日記」および台湾側一次史料による分析	アジア経済58 (3)
丸川 知雄	世界経済の「中心」としての中国	国際問題664
米 多	中華民国の「アジア反共同盟」構想—アジア冷戦変容下の集団安全保障政策	国際政治188
溝渕 正季	揺れる米国の対中東政策と胎動する「ポスト米国」の中東地域秩序—湾岸と海洋の安全保障を中心に	中東研究531
向山 直佑	第三国による歴史認識問題への介入の要因と帰結—アルメニア人虐殺へのジェノサイド認定とトルコ	国際政治187
村上 拓哉	サウジアラビアの海軍増強計画—イランの脅威への対処と紛争の管理を巡る問題	中東研究531
八塚 正晃	中国の中東政策—「一带一路」構想における関与の様態	中東研究531
山影 進	ASEAN外交半世紀にみる加盟国にとっての効用	国際問題665
山本 健介	エルサレムをめぐる和平プロセスとパレスチナ人の政治—「解決困難な紛争」における交渉の政治的意味	国際政治189
山本 秀也	中国の「大一統」回帰とその影響—南シナ海問題を中心として	国際安全保障45 (2)
湯澤 武	ASEANの対南シナ海外交の効用と限界—ルール形成の取り組みを中心に	アジア研究63 (4)
ポール・S・ライクラー	法の支配と南シナ海における公正かつ永続的 (持続的) な平和に向けた道筋	国際問題666
林 泉忠	中国台頭症候群—香港・台湾から見た「チャイニーズ・システム」の課題	アジア研究63 (1)
鹿 錫俊	抗日戦争史をめぐる中国の歴史認識問題—扱われ方の変遷とその影響に着目して	国際政治187
脇 祐三	人口増と収入減が迫るGCC諸国の経済改革	中東研究529
鷺田 任邦	権威主義的政党支配下におけるグリマンダリング—GISを用いたマレーシアの事例分析	日本比較政治学会年報19
渡邊 武	不拡散における誘因の欠如—なぜ北朝鮮は非核化しなかったのか	防衛研究所紀要19 (2)
渡邊 真理子	プラットフォーム企業が起こすイノベーション—アリババドットコムからみえてくる新しいかたち	国際問題664

【アメリカ・ヨーロッパ関係】

安高 敏朗	ネオリベリズムの生命力—世界金融危機後のアメリカにみるネオリアリズムの行為遂行的効果	年報政治学2017-I
有江 浩一、山口 尚彦	米国におけるIAMD (統合防空ミサイル防衛) に関する取り組み	防衛研究所紀要20 (1)
池田 明史	トランプ新政権下の米国と中東—同盟関係再編の虚実	国際問題663
石川 卓	オバマ政権の同盟政策—相対化の逆説的効果	国際安全保障45 (1)
板橋 拓己	変調するドイツ政治—難民危機とポピュリズムのなかで	国際問題660

伊藤 潤	FEMA（連邦緊急事態管理庁）の創設—米国のAll-Hazardsコンセプトに基づく危機管理組織再編	国際安全保障45（1）
伊藤 頌文	イギリスの対外軍事関与と東地中海における同盟—キプロス主権基地領域を巡る議論を中心に、1968-74年	国際安全保障44（4）
井上 淳	EUへの難民大量流入の構造的要因—積極的対外政策と難民対策との間のトレード・オフ	日本EU学会年報37
植木 俊哉	国連憲章とEU法の関係	国連研究18
植田 隆子	EUの域内治安と対外安全保障の連結	日本EU学会年報37
梅川 健	オバマ政権とテロとの戦争—「国家機密特権」と「標的殺害」を中心に	国際安全保障45（1）
遠藤 乾	苦悩する欧州—あるいは先進国の憂鬱	国際問題660
遠藤 寛文	新大陸における「帝国」の残滓—1812年戦争期の「親英勢力」とアメリカの自画像	アメリカ研究51
大原 俊一郎	国際政治史研究におけるドイツ歴史学派の方法論—18世紀ヨーロッパ諸国家体系の成熟過程を中心に	国際政治189
大森 佐和	IMFは変わったか—世界金融危機前後の米国と日本の融資プログラムへの影響の計量分析	年報政治学2017-I
岡田 美保	「介入国としてのロシア」「非介入国としてのロシア」	国際安全保障45（2）
岡部 みどり	EUによる広域地域形成とその限界—対外政策としての出入国管理	日本EU学会年報37
岡部 みどり	欧州移民・難民危機とEU統合の行く末に関する一考察	国際問題662
奥田 暁代	愛国心、男らしさ、米西戦争をめぐる黒人知識人の言説—サットン・E・グリッグスの描く国家／地域／自画像	アメリカ研究51
木村 汎	次期大統領選—ブーチン当確の理由	国際問題667
切通 亮	アジア太平洋リバランスの再考—オバマ政権後期における安全保障政策を中心に	防衛研究所紀要20（1）
草野 大希	オバマ政権の介入政策における「アメリカ例外主義」—不安定な世界におけるアメリカの自画像の再構築	アメリカ研究51
源島 穰	相互作用ガバナンスとしての社会的包摂—イギリスの近隣地域再生政策を事例に	比較政治研究3
小泉 直美	米ソ冷戦終結のプロセス—ロシア地域研究の視点から	国際政治189
小泉 悠	ウクライナ危機にみるロシアの介入戦略—ハイブリッド戦略とは何か	国際問題658
小泉 悠	中東湾岸地域に対するロシアの軍事的関与—その実態と限界	中東研究531
神江 沙蘭	金融危機後の改革と政治—ユーロ圏におけるドイツ	国際政治189
佐々木 卓也	「トランプ革命」とアメリカ外交へのインプリケーション	国際問題663
塩川 伸明	歴史のなかのロシア革命とソ連	国際問題667
志田 淳二郎	「欧州国家」アメリカの自画像—冷戦終結期の米欧関係とG・H・W・ブッシュ外交の基調	アメリカ研究51
関口 洋平	「イクメン」の誕生と新自由主義—20世紀後半アメリカにおける白人中流階級の父親の表象について	アメリカ研究51
大道寺 隆也	欧州共通庇護体制形成をめぐる国際機構間関係—EU内外の諸主体の交錯とその理論的含意	日本EU学会年報37
玉井 雅隆	国際連合と欧州安全保障協力機構の協働—相互補完関係の成立過程に関する考察	国連研究18
玉置 敦彦	ベトナム戦争をめぐる米比関係—非対称同盟と「力のパラドックス」	国際政治188
長 史隆	冷戦の変容と日米関係 一九七三—一九七五年—米国による対日関係の再定義	国際政治188
豊田 紳	組織化された野党不在の下での競争選挙実施による支配政党の崩壊—ソ連とメキシコの比較分析	日本比較政治学会年報 19
中井 愛子	主権国家体系と国際規範をめぐる地域的構想—19世紀ラテンアメリカの法的地域主義	国際政治189

中野 耕太郎	「アメリカの過去」と歴史叙述のグローバル化—アメリカ史研究の現在	アメリカ研究51
中野 博文	揺れ動くアメリカの市民像—リチャード・ホフスタッターとヘンリ・アダムズの歴史観をめぐって	アメリカ研究51
中村 民雄	変容する未完の憲法—イギリスのEU加盟と脱退	レヴァイアサン60
中山 俊宏	オバマ外交とはなんだったのか	国際安全保障45 (1)
西住 祐亮	オバマ政権下における紛争介入政策の検証—介入と不介入の狭間で	国際安全保障45 (1)
浜 由樹子	ロシアの「ユーラシア・アイデンティティ」の形成と展開—外務省周辺の実務家・専門家グループを中心に	国際政治189
原田 徹	BREXITと「社会給付と自由移動」をめぐるEU政治過程—域内移民と国外派遣労働を架橋する交渉力学を中心に	日本EU学会年報37
廣瀬 陽子	ウクライナ危機の長い影—ロシアとNATO	国際問題667
ルカ・ベルツィケッリ (著), アンドレア・プレセッロ (訳), 増山幹高 (訳)	イタリアのレンツィ政権による憲法改革の試み—前提、目標、方法、教訓	レヴァイアサン60
堀内 賢志	ロシアの「東方シフト」と日ロ経済協力の展望	国際問題667
増田 久美子	伝記テキストにおける女性市民の形成—セアラ・ヘイル『女性の記録』の家庭的歴史の語り	アメリカ研究51
松浦 光吉	ポーランド経済と海外直接投資—外資企業のプレゼンスと貢献の観点で	日本EU学会年報37
松尾 秀哉	多極共存の国ベルギーの「苦悩」とポピュリズム	国際問題660
溝口 修平	ロシアにおける1993年憲法体制の成立と変容—憲法改正なき変容から憲法改正を伴う変容へ	レヴァイアサン60
溝端 佐登史	制裁下ロシア経済の現状と政策動向	国際問題667
武藤 祥	ポルトガル「立憲的独裁」の成立 (1926-33年)	日本比較政治学会年報 19
村野 将	中東におけるミサイル防衛の発展と米国の取り組み	中東研究531
森 聡	オバマ政権期における国防組織改編の模索—国防イノベーションの組織的側面	国際安全保障45 (1)
森 聡	技術と安全保障—米国の国防イノベーションにおけるオートノミー導入構想	国際問題658
八十田 博人	地中海移民・難民対策をめぐるイタリア・EU間の論争	日本EU学会年報37
山下 要	制海をめぐる米海軍及び米海兵隊の動向とアジア太平洋の海洋安全保障	防衛研究所紀要19 (2)
横手 慎二	トランプ大統領登場後の米ロ関係—ロシアの対応	国際問題663
吉田 徹	フランス国民戦線 (FN) の変容—「極右」から「ポピュリズム」へ?	国際問題660
若林 麻希子	国民文学創生と文化的覇権闘争—セジウィックの『リンウッド家』における建国の地政学	アメリカ研究51
若松 邦弘	EU離脱への対応とイギリス政治のジレンマ	国際問題660